

阿波市「阿波町・吉野町」の社寺建築

社寺建築班（郷土建築研究会）

宮田 育典^{*1} 木宮 茂樹^{*2} 黒崎 仁資^{*3} 坂口 敏司^{*4} 酒巻 暢代^{*5} 中野 真弘^{*6}
 森兼 三郎^{*7} 山崎 知幸^{*8}

要旨：建築学的見地から、阿波市阿波町・吉野町の築50年以上の社寺建築を対象に、調査をした。

キーワード：持送り、鐘楼門、両流造、板支輪

1. はじめに

阿波市は、吉野川中流域の北岸に位置し、北を阿讃山脈、南を吉野川に挟まれる。市の西端に阿波町、中央に市場町と土成町を挟み、南東部に吉野町がある。私たち社寺建築班は、7月31日から阿波市に入り、社寺建築を建築学的見地から調査した。阿波町は神社26社、寺院8カ寺、お堂・お庵^{あん}は11カ所を調査し、吉野町は神社13社、寺院5カ寺、お堂・お庵^{あん}は3カ所を調査し、配置図を作成し、それぞれの建^{けん}立年代や構造、建築様式などを一覧表（表1～4）にまとめた。また、それらの位置を図6と図19に示した。そのうち神社3社、寺院1カ寺、寺院の山門1カ所については詳細調査を行い、実測図を作成した。建築年代については、書籍や棟札^{むなふだ}から確認できるもの（表5・6）以外は、建築様式から推測した。以下その内容について報告する。

2. 阿波町・吉野町の社寺建築概要

1) 神社建築の概要

今回の調査で建立年代が最も古いと推測されるものは、阿波町岩津の八幡神社本殿で、『徳島県の近世社寺建築』に江戸中期の元禄6年（1693）の建立



図1 妻飾の大瓶束 岩津の八幡神社

と紹介されている。今回の調査では室内の確認はできていないが、徳島県の近世社寺建築等の資料によると、内・外陣^{ないげじん}の形式を持つ二室形式や妻飾^{つまかざり}に付く3本の^{たいへいづか}大瓶束^{れんげざ}は蓮華座^{れんげざ}にのる形態で、仏教の影響を受けたものと推測できる。

吉野町西条の一條神社拜殿には、町史によると、正保4年（1647）建立時の棟札^{むなふだ}が現存している。その他の神社は、様式から推測する限り、明治以降に建立されたものと考えられる。

本殿の建築様式は、八幡神社の切妻造^{きりづまづくり}（両流造^{りょうながれづくり}）が1社、蛭子神社^{かすがづくり}の春日造^{かすがづくり}が1社、あとは、見世^{みせ}棚^{たな}

*1 宮田建築設計工房 *2 木宮建築設計事務所 *3 黒崎建設 *4 坂口建築設計室 *5 Y. M. 設計室
 *6 真建築都市研究室 *7 A+U森兼設計室 *8 ArtVilla設計



図2 持送り 新開の賀茂神社



図3 二重門 居屋敷の善行寺

づくりのながれづくり小社殿を除いて、ほとんどのものが流造であった。流造とは切妻、平入の本殿正面の屋根を伸ばして向拝としたもので、全国的に最も広く分布した造りで、県下においても圧倒的に多い様式である。

細部の特徴としては、腰組こしくみに持送りもちおくりが多く用いられていた。持送りとは、庇や出窓などの突出す部分を支えるために、壁や柱などに取り付ける板材や斜め材のことで、本殿回りの縁を支えるために使われている。今回の調査では11社で確認された。

2) 寺院建築の概要

寺院で建立年代が最も古いと推測されるものは、阿波町稲荷の西光寺山門で、三間一戸の二層の門であり、上層のみ屋根を有するので楼門と呼ばれる。この門は上層部分に梵鐘ぼんしやうを吊るので鐘楼門である。また、この地域の神社建築の腰組で多くみられた持送り（図2）が使用されている。

また、吉野町岡ノ川原の延寿寺も江戸の中期とみられる。

明治初期と推測されるものには、居屋敷の善行寺の山門、鐘楼を兼ねた二重門の入母屋造本瓦葺。二重門とは、上重・下重ともに屋根を付けた二重屋根門をいう。山ノ神の願成寺本堂は、宝形造本瓦葺で、天保元年（1830）。鐘楼は入母屋造本瓦葺で、明治初期と以前に住職の聞き取りから確認されている。今回の調査では、鐘楼は、四本柱が内転びのものに屋根をのせたものが多く見られた。吉野町の寺院も本堂の建て替えがすすんでおり、新しい建物が多くみられたが、鐘楼は、吉野町5カ寺ともに、本



図4 鐘楼 岡ノ川原の延寿寺



図5 東川原の鎌棒庵

瓦葺の伝統的なものが残っている。

お堂・お庵では、東川原の鎌棒庵が正面三間、奥行三間の宝形造本瓦葺で、開閉装置には、硝子戸が填められている。

平成20年度8月末日現在

表1 神社建築調査一覽表 阿波町

神社名	鎮座地	創建	祭神	社格	鳥居様式(材料)	本殿 建築様式	拝殿 建築様式	特記事項	本殿廻廊
1 明多意神社	立刺169	不詳	木花咲御姫命 國常立尊 大己貴命他	旧村社	一間社流造	入母屋造	往古より砂林大権現と称す	特送り	
2 伊津神社	伊刺195	不詳	応神天皇 神功皇后 玉依姫命他	旧郷社	二間社流造	二間社流造	延喜年間再建記録有	特送り	
3 八幡神社	岩津83	不詳	崇徳天皇 鳥辺足姫命 足仲彥命他	旧村社	二間社流造	二間社流造	東条八幡詞		
4 八幡神社	居屋敷219	不詳	応神天皇 神功皇后 玉依姫命他	旧村社	二間社流造	二間社流造			
5 八幡日吉神社	十番地112	不詳	応神天皇 神功皇后 大山咋命他	旧村社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
6 黄布瀬神社	井出口282	不詳	龍淵加美神 龍御津彦神 天御中主尊他	旧村社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
7 黄茂神社	伊勢5	不詳	素戔嗚命	旧村社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
8 王子神社	王子12	不詳	素戔嗚命	旧村社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
9 王子神社	王子119	文明以前	武甕槌命	旧村社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
10 勝命神社	勝命本町北29	不詳	神理媛命 伊弉諾尊 伊弉冉尊他	旧村社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
11 春日神社	新開30	不詳	瓊々杵神 伊弉加牟耜尊 天忍日命	旧村社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
12 春日神社	下喜来258	不詳	天兒屋根命	旧村社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
13 八坂神社	谷島201	不詳	素戔嗚命	旧村社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
14 天神社	山原	享保年間創建	菅原道真	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
15 伊勢神社	伊勢	不詳	天照大神	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
16 坂東神社	康申原	不詳	坂東家祖神	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
17 三社宮	森次	不詳	酒解勇命 伊弉冉尊 他	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
18 稻荷神社	稲荷	不詳	稻荷魂命	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
19 靈神社	岡地	不詳	伊弉家祖神	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
20 葵子神社	岩津83	不詳	皇代主命	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
21 異船神社	王子川	不詳	皇象女命	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
22 稻荷神社	小倉	不詳	稻荷魂命	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
23 稻荷神社	西長峰	不詳	稻荷魂命	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
24 日根(山王)神社	山王	不詳	藤田彦命	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
25 神木神社	下喜来南	不詳	神木家の鎮守	旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	
26 三木神社	本町	不詳		旧無各社	二間社流造	二間社流造	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	切妻造本瓦葺一面向拝入母屋	

表2 寺院建築・御堂建築調査一覽表 阿波町

平成20年度8月末日現在

寺院名	所在地	開基	宗派	本尊	建築物名	特記事項
A 願成寺	山ノ神181		真言宗高野山派		本堂:宝形造本瓦葺一面向拝殿破風 鐘樓:入母屋造本瓦葺	
B 西光寺	稲荷63		真言宗高野山派		本堂:入母屋造本瓦葺 方丈形式 山門:三間一戸八脚門入母屋造本瓦葺	山門に特送り使用
C 明王院	谷島22		真言宗高野山派		本堂:不動堂 新築 鐘樓:入母屋造本瓦葺	
D 福智寺	五明129-1		真言宗大覚寺派		本堂:新築造本瓦葺 聖天堂:宝形造本瓦葺一面向拝殿破風	
E 誓行寺	居屋敷35		真言宗光寺派		本堂:入母屋造本瓦葺一面向拝殿破風 鐘樓:二重門入母屋造本瓦葺	
F 常圓寺	川久保83		真宗仏光寺派		本堂:新築 宝庫:宝形造土蔵造	
G 法華寺	北ノ谷67	明治12年開基	本門法華宗		本堂他新築	
H 聖國寺	西正広				構式外・RC	現在建物なし
I 薬師堂	小倉				切妻造本瓦葺	
J 大師堂	西長峰				構式外・寄棟長尺瓦葺葺	
K 不動堂	日吉谷				構式外・美人切妻	
M 観音堂	土善地				構式外・切妻造	
N 薬師堂	南谷島				宝形造本瓦葺一面向拝殿破風	
O 観音堂	東川原				宝形造本瓦葺	
P 岩津庵	岩津				切妻造本瓦葺一面向切妻破風	
Q 観音堂	大久保				狹骨覆屋内・見世櫓造	
R 観音堂	北久保				構式外・切妻造	
S 西林のお堂	西林				宝形造本瓦葺	

※1 阿波町史 ※2 阿波の寺社建築

3. 阿波町・吉野町の各社寺

1) 八幡神社本殿 (表1-3)

鎮座地 - 阿波町岩津93

[本殿] 木造 一間社切妻造 (両流造) 銅板葺
 身舎 - 円柱 (粽) 切目長押 腰長押 (背面のみ)
 内法長押 頭貫木鼻 (拳) 大斗絵様肘木
 二軒繁垂木 妻飾 大虹梁 二重虹梁
 大瓶束
 向拝 - 角柱 (角面) 連三斗 繫海老虹梁
 三方切目縁 腰組線形持送り 擬宝珠高欄
 脇障子 (板)
 千木 - 垂直切 3本 堅魚木 - 3本

(図7~10)

この社は、阿波町の南西、岩津に鎮座する。

本殿は、一間社両流造銅板葺である。通常の両流造は、向拝を造らないで身舎の中心部に棟を造る。代表的なものには広島県の厳島神社本殿などがあ

る。この本殿は身舎背面の柱から向拝柱まで大虹梁を延ばし、その中心に棟を造る構造となっている。

妻飾の大虹梁と二重虹梁間に付く大瓶束は、蓮華座にのる形態で、徳島市の一宮神社 (江戸前期・重要文化財) にも見られる。室内は、今回確認できていないが、徳島県の近世社寺建築等の資料によると、仏教建築の内・外陣の影響下に発生した二室形式の間取りであり、蓮華座と共に神仏習合の名残がみられる。

向拝部分には、角面の角柱を立て、三方に切目縁を回し、擬宝珠高欄が付く。背面筋に簡素な脇障子を填め、腰組の線形持送りで縁を支える。

大虹梁下の繫海老虹梁は、構造的には不要なものと思われるが、他に類例のない手法となっている。

本殿の建立年代は、徳島県の近世社寺建築によると、元禄6年 (1693) である。

また、八幡神社の北側の摂社・蛭子神社本殿は今回の調査で唯一みられた春日造であった。



図7 身舎妻面



図9 線形持送り



図8 大瓶束



図10 蛭子神社本殿・春日造

2) 賀茂神社本殿 (表1-11)

鎮座地 - 阿波町新開30

[本殿] 木造 三間社流造 銅板葺

身舎一円柱 地長押 切目長押 内法長押

頭貫木鼻 (獅子・象) 台輪
 出三斗 (尾垂木付) 中備 臺股
 彫刻板支輪 二軒繁垂木 棧唐戸
 妻飾・大虹梁 二重虹梁 皿斗 出三斗
 中備彫刻 (鳳凰) 大瓶束笏型付

向拝一角柱 (几帳面) 虹梁型頭貫木鼻 (龍)

皿斗 出三斗 脇部中備彫刻
 中央部唐破風状の虹梁 中備斗付肘木 手扶
 繫海老虹梁 二軒繁垂木 三方切目縁
 腰組彫刻持送り 擬宝珠高欄 脇障子
 階七級 (木口) 彫刻側板 昇擬宝珠高欄
 浜床

千木一垂直切2本 堅魚木一3本

(図11~14)

この社は、阿波町南中央部の新開にあり、東西に走る旧撫養街道より北へ伸びる参道の奥に鎮座する。創建年代は不詳。阿波誌によると、貞享元年(1684)に現在の位置に移し祀ったと伝えられる。その後、文政8年(1825)に焼失し、現在の社殿は、その後に再建されたと町史に記されている。

本殿は、三間社流造で、和泉砂岩の切石積基壇に載る。身舎部分は、円柱を切目長押と内法長押で固め、柱頭部には獅子や象鼻付の虹梁型頭貫と台輪が載る。身舎の組物は尾垂木の付いた出三斗で、柱間に中備臺股、組物の天井には彫刻板支輪が付く。妻飾は大虹梁に皿斗付出三斗、二重虹梁が載り、鳳凰

の中備彫刻が施され、その上に大瓶束笏形付を立てる(図11)。

向拝部分は、几帳面取の角柱を立て、虹梁型頭貫で固め龍の木鼻が付く。柱頭部は薄い皿斗の上に出三斗が付く組物で構成され、身舎側へは中央に籠彫りの手扶が、妻側には繫海老虹梁が取り付く。中央部の頭貫虹梁は湾曲して正面性を出し、軒は二軒繁垂木とする。三方に切目縁を回し、身舎背面柱筋に脇障子が付く。擬宝珠高欄を回し、階は七級の木口階段で浜床を張る。腰組は、この地域の特徴である彫刻の施された持送りで支える。



図12 本殿妻飾



図13 向拝正面



図14 向拝側面

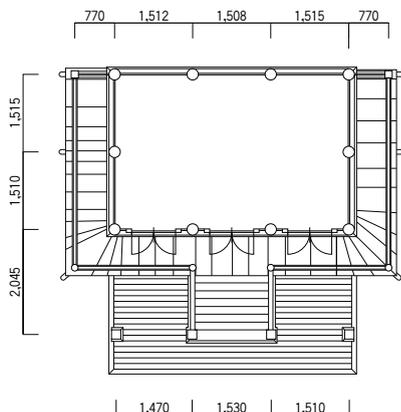


図11 本殿平面図

3) 西光寺山門 (表2-B)

所在地 - 阿波町稲荷53

木造 三間一戸鐘樓門 入母屋造本瓦葺

下層 - 角柱 地長押 腰貫 金剛垣 (正面のみ)

虹梁型飛貫

上層 - 角柱 頭貫木鼻 (拳) 台輪 平三斗

一軒扇垂木 火灯窓 竿縁天井

高欄 - 擬宝珠高欄 四方切目縁 挿肘木 持送り

(図15~18)

西光寺は、阿波町の南中央部、市役所の東部に位置する。創建年代は不明である。旧町誌に、「この寺は、もと中野村道灌にあったが天正十年長宗我部の兵火で灰じんに帰し、久千田庚申原に再建した。

その後火を失して再び鳥有に帰したので明暦三年(1657)宥祥法印が現在地に建立(中略)天保五年(1834)より八年まで三年有余を費やして楼門納屋土蔵を建立した。」と記述されている。

山門は、桁行5.463m、梁間3.443mの三間一戸鐘樓門で、昭和59年に阿波市指定有形文化財(建造物)に指定された。

屋根は、入母屋造本瓦葺、軒は一軒扇垂木、上層の柱頭部の組物は平三斗としている。柱頭部は、台輪と頭貫で固め、端部は共に木鼻を付ける。中央列外側の柱2本と柱を支える脚にあたる外列の8本の柱は角柱で、下層と上層の柱は通し柱で、他に類例がない構造となっている。上層正面及び背面中央に火灯窓を配し、両側は火灯連子窓で、妻面は連子窓とする。天井は竿縁天井で仕上げる。高欄は擬宝珠高欄とし、切目縁を四方に回し、組物は設けず、持送りとその上部の挿肘木に縁葛を載せ縁板を受ける。下層正面中央は虹梁型飛貫を組み、管柱となっている中央列の柱に棧唐戸の扉を吊る。両脇には、腰板を縦張りし、正面のみに腰板の上に金剛垣を設け、内法部には虹梁型の飛貫を組み、内部は床を上げて金剛力士像を置く。

火灯窓、扇垂木、台輪木鼻、壁板の縦張り、肘木の形状などが禅宗様、天井の竿縁天井が和様、挿肘木が大仏様とそれぞれの特徴を取り入れた折衷様式であるが、禅宗様の特徴を多く取り入れている。

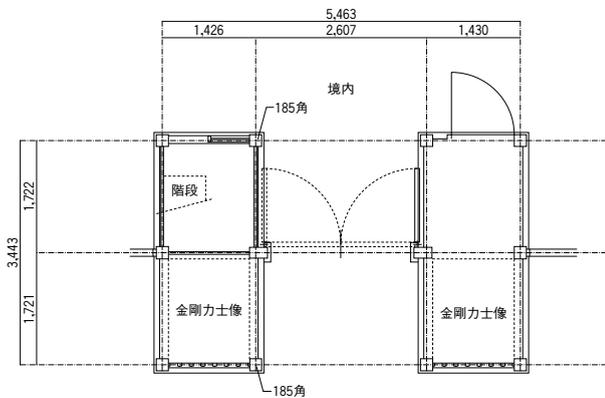


図15 平面図



図17 正面全景



図16 上層内部



図18 背面全景

表3 神社建築調査一覧表 吉野町

平成20年度8月末日現在

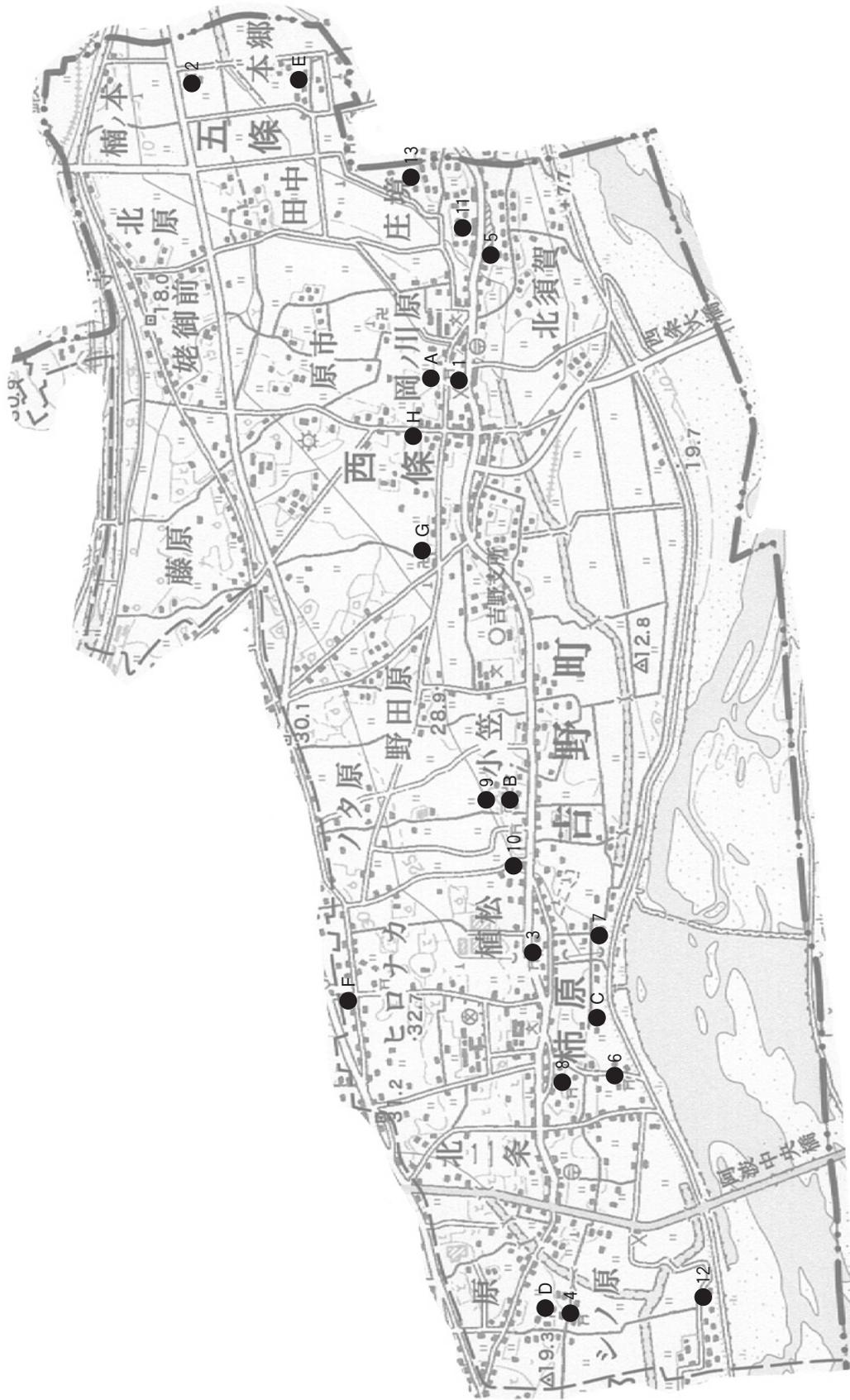
神社名	鎮座地	創建	祭神	鳥居様式(材料)	本殿 建築様式	拝殿 建築様式	特記事項	本殿廻組
1 一條神社	西条字甲口146-1	不詳	菅田別命 息長足姫命 足仲彦命	明神(御影)	一間社流造	入母屋造	元八幡神社と祈す	特送り
2 五条神社	五条字向ヶ島247	不詳	速玉男命(相殿)事代主命他十社合祀	明神(御影)	一間社流造	切妻造本瓦葺一間向拝入母屋破風	紀州熊野神社より勧請し田中神社と称した	特送り
3 国郡神社	柿原雄松32	不詳	国常立尊	明神(御影)	一間社流造	入母屋造本瓦葺		特送り
4 案内神社	柿原字篠原339	不詳	猿田彦命 天御女命 他	明神(御影)	一間社流造	入母屋造本瓦葺	大正三年、現在の小祠十二柱の神を合祀する	特送り
5 若宮神社	柿原字福松	不詳	土御門天皇	明神(御影)	一間社流造	入母屋造本瓦葺	明治八年、社社に列せられる	特送り
6 天神社	柿原字二条95-2	不詳	菅原連真公	明神(御影)	一間社流造	入母屋造本瓦葺一間向拝入母屋破風		特送り
7 八坂神社	柿原小島	不詳	兼壽嶋命	覆屋小社殿	覆屋小社殿	切妻造本瓦葺	平成17年改築	特送り
8 八幡神社	柿原字二条47	不詳	菅田別命 息長足姫命 足仲彦命	明神(御影)	一間社流造	様式外・切妻造		特送り
9 十二柱神社	柿原字小笠185	不詳	天神七代地神五代神	明神(御影)	三間社流造	様式外・入母屋	別当柿原村薬師寺と記す	
10 八幡神社	柿原字福原127	不詳	菅田別命	明神(御影)	一間社流造	入母屋造本瓦葺一間向拝入母屋破風		
11 蛸子神社	柿原	昭和8年		明神(御影)	覆屋小社殿	切妻造本瓦葺		
12 春日神社	柿原字小笠前	昭和58年			覆屋小社殿			
13 熊野岩倉神社	西条字庄茂	昭和55年		明神(御影)	一間社流造	様式外・切妻造		

表4 寺院建築・御堂建築調査一覧表 吉野町

平成20年度8月末日現在

寺院名	所在地	開基	宗派	本尊	建物名	特記事項
A 延寿寺	西条岡ノ川原84	正保元年(1644)	浄土真宗興正寺派	阿彌陀如来	本堂:入母屋造本瓦葺一間向拝細破風 鐘樓:切妻造本瓦葺	
B 薬師寺	柿原西小笠160		真言宗御室派	薬師如来像	本堂:入母屋造本瓦葺一間向拝細破風 鐘樓:入母屋造本瓦葺	
C 聖徳寺	柿原字谷127		真言宗御室派	地藏菩薩像	本堂:入母屋造本瓦葺一間向拝細破風 鐘樓:切妻造本瓦葺	
D 常徳寺	柿原字ノ原229		真言宗御室派	地藏菩薩像	本堂:RC造本瓦葺 鐘樓:入母屋造本瓦葺	
E 真徳寺	五条字コウモウ972-3		浄土真宗本願寺派	阿彌陀如来	本堂:RC造 鐘樓:入母屋造本瓦葺	
F 庚申庵	ヒロナカ4番地			聖観音	様式外	
G 松林庵	中小路				切妻造	
H 黒部庵	出屋敷			釈迦如来	様式外・春日造	

※1 吉野町史 ※2 阿波の寺社建築



地形図は「阿波市全図」(阿波市発行、建設省国土地理院承認番号 平18 四履、第85号)の一部を使用

図19 吉野町社寺建築案内図 (番号および記号は表3・表4と対応)

4) 一條神社殿 (表3-A)

鎮座地 - 吉野町西条字町口146-1

[本殿] 木造 一間社流造 銅板葺

身舎 - 円柱 (粽) 切目長押 内法長押 頭貫木鼻
 (獅子) 台輪留 出組 詰組 中備彫刻 裏股
 彫刻板支輪 二軒繁垂木 切石積基壇
 棧唐戸 妻飾・大虹梁 二重虹梁

向拝 - 角柱 (几帳面) 虹梁型頭貫木鼻 (虹梁方向:
 龍, 繋ぎ方向: 獅子) 出三斗 中備彫刻
 繋海老虹梁 手挟 二軒繁垂木 三方切目縁
 擬宝珠高欄 脇障子 (彫刻) 階五級 (木口)
 昇擬宝珠高欄 彫刻側板 浜床

千木 - 垂直切 2本 堅魚木 - 3本

(図20~23)

この社は、吉野町の東部、西条に鎮座する。足仲彦命、誉田別命、息長足姫命を祭神とする。吉野町史に、元来は八幡神社であったが、明治43年(1910)に西条にあった無格社19社を合併し、一條神社と改称したと記されている。

本殿は、一間社流造銅板葺で、和泉砂岩の切石積

基壇に載る。覆屋に囲われており、外部からはほとんど見ることはできない。

身舎部分は、円柱を切目長押と内法長押で固め、柱頭部には頭貫木鼻と台輪留が載る。組物は出組の詰組とし、中備には彫刻裏股を充てる。組物の天井は彫刻板支輪とする。軒は二軒繁垂木とし、妻飾は大虹梁の上部に出三斗を載せて、二重虹梁を受ける。虹梁及び棧唐戸まわりなど随所に華やかな彫刻が施されている(図20, 21)。

向拝部分は、几帳面取の角柱を立て、虹梁型頭貫で固める。柱頭部には大斗を置き、出三斗で軒を受け、中備には彫刻を填める。繋ぎには海老虹梁と向拝柱側には籠彫りの手挟が付く(図23)。三方に切目縁を回し、彫刻を填めた脇障子には擬宝珠高欄が取り付く。階は五級の木口階段とし、浜床を張る。肘木の木口や組物など随所に彩色の痕跡が見られる。

本殿、拝殿共に建立年代は不詳であるが、虹梁下部に錫杖彫がないことや、彫刻が多様に施されていることから、明治時代以降の建立と推測する。



図20 本殿正面

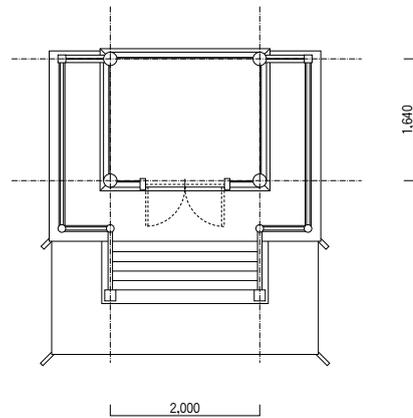


図22 本殿平面図



図21 本殿妻飾



図23 繋海老虹梁と手挟

5) 延寿寺 (表4-A)

所在地 - 吉野町西条字岡ノ川原84番地

[本堂] 木造 桁行五間 梁間五間 入母屋造
本瓦葺

主屋 - 角柱 (正面中央部と隅のみ舟肘木) 切目長押
内法長押 虹梁型内法貫 (正面) 一軒疎垂木
二方切目縁 内陣・来迎 柱半円形
虹梁型飛貫挿肘木 外陣・虹梁型飛貫
大斗肘木

向拝 - 角柱 (几帳面) 縄破風 虹梁型頭貫木鼻 (象)
連三斗 手挟 中備平三斗 階 (板) 三級
(図24~27)

延寿寺は、吉野町の東部に位置する。由来は、正保元年 (1644) 教信上人により創建された浄土真宗の寺である。現在の本堂は、天保12年 (1841) に上棟されたことが棟札からわかる。

本堂は、桁行五間、梁間五間の主屋を中核にして、左側に軒下を利用した一間幅の畳ノ間を、右側は余間部分だけ半間の張出し、背面側は半間幅の後堂を付設する。また屋根妻部は、銅板一文字葺で覆う。

主屋部は、長押一段分上げて内外陣境を設け、内陣の両側に余間をとり、内陣には黒色漆塗りと彩色を施し、外陣は対象的に質素な素木仕上げとし、浄土真宗の典型を示す。外陣の梁間方向虹梁型飛貫間に大瓶東笈形付 (松模様) を立て、正面側は虹梁型内法貫で受ける。

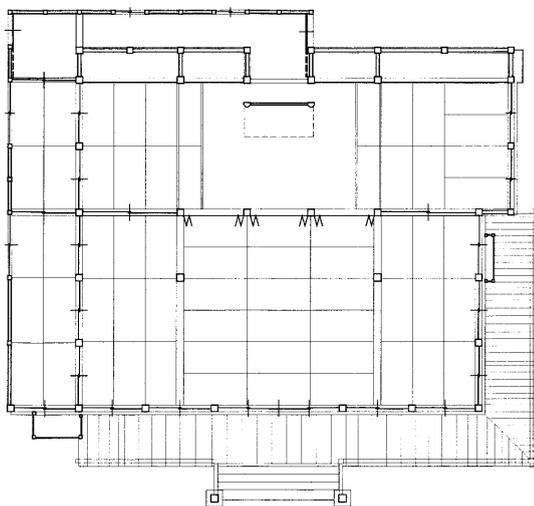


図24 平面図

向拝部は、几帳面取の角柱に虹梁型頭貫で固め象の木鼻が付く。柱頭部は、木鼻に送斗^{おくりと}を載せた連三斗と籠彫りの手挟で構成され、軒は一軒疎垂木である。正面と右側の二面に切目縁を回し、様式外の簡素化した高欄を配する。階部は、様式外でコンクリート式台に階 (板) 三級を組み切目縁部は框を施す。



図25 正面全景



図26 内陣



図27 外陣

表5 阿波町 棟札調査一覧表

名 称 ○は現存建物	番号	西暦	年号	年	干支	月日	目的	大 工	寸 法					鬼門切	備考		
									総高	片高	上幅	下幅	厚さ				
八幡神社 (旧阿波町居屋敷)	拜殿	1	1865	元治	2	乙丑		再建	東林邑 藤原大工 西條宇兵衛 宇蔵 安三郎	667	655	98	90	25	左		
	本殿	2	1885	明治	18	乙酉		再建	大工 十川和吉	545	530	107	90	15			
	本殿	3	1920	大正	9	庚申		葺替		662	657	116	97	18			
	幣殿	4	1922	大正	11	癸亥		再建 上棟	工事請負主 西條伊○太 大工 坂東辻蔵	988	966	189	152	20			
	玉殿、向拝	○	5	1939	昭和	14	己卯		再建	大工 新藤虎蔵	710	684	178	150	16		
明多意神社	本殿	○	1	1919	大正	8	己未	4月12日	再建	大工 大館伊左工門	912		196	180	35		合併合祀

表6 吉野町 棟札調査一覧表

名 称 ○は現存建物	番号	西暦	年号	年	干支	月日	目的	大 工	寸 法					鬼門切	備考	
									総高	片高	上幅	下幅	厚さ			
延寿寺	本堂	○	1	1841	天保	12	辛丑	3月14日	大工 板野郡七條邑棟八藤原家次	635	620	141	124	22	左	

4. おわりに

全般的に、阿波町・吉野町ともに本堂の建て替えがすすんでおり、新しい建物が多く見られた。このように伝統的な建物を壊して近代的なものに建て替えられる傾向にあり、今回、詳細調査を行った西光寺山門、延寿寺(表6)など、江戸時代の遺構を大切にしてもらいたい。

特に岩津の八幡神社(表5)は文化財としての保存を願う。

なお、本稿では、建築年代を表す上で、江戸時代の年代区分は建築的な特徴から前期を1615～1660年、中期を1661～1750年、後期を1751～1829年、末期を1830～1867年に区分した。

最後に、今回の調査において、多くの市民の方々

に調査協力を頂いた。この場を借りてお礼を申し上げます。

文献

- 阿波町史編集委員会 (1979)：『阿波史』阿波町。
- 吉野町史編集委員会 (1978)：『吉野町史』吉野町。
- 徳島県神社庁教化委員会 (1981)：『徳島県神社誌』徳島県神社庁。
- 奈良国立文化財研究所編 (1990)：『徳島県の近世社寺建築(近世社寺建築緊急調査報告書)』徳島県教育委員会。
- 阿波のお堂の風俗研究会 (1988)：『阿波のお堂』徳島県出版文化協会。
- 徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会 (1997)：『阿波の社寺建築』阿波のまちなみ研究会。
- 東京美術 (1992)：仏教堂塔辞典。
- 徳島県文化振興財団 徳島県郷土文化会館 (2009)：『日開谷川流域の民族』。